



プレスリリース

令和4年度草の根・人間の安全保障無償資金協力:

アルマヴィル市立第5幼稚園改修計画 供与式の実施

エレバン: 令和 7 年 10 月 23 日

令和 7 年 10 月 20 日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「アルマヴィル市立第5幼稚園改修計画」(供与限度額:147,210 米ドル)の供与式が、アルマヴィル市庁舎において開催されました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、ヴァルシャム・サルグシャン・アルマヴィル市長、ナイラ・アラケリャン・アルマヴィル開発センターNGO代表が出席したほか、幼稚園関係者や市役所職員も出席しました。式典は現地の子どもたちが日本語で歓迎のスピーチや歌を披露するなど、温かい雰囲気で行われました。

本事業はアルマヴィル市立第 5 幼稚園の屋根、床、窓、ドアを改修し、下水設備を修復するとともに暖房設備を設置することで、園児が安全かつ衛生的な環境下で学習に取り組むことを可能にし、同市の教育や社会生活水準の向上に寄与することを目的としています。1973 年に建設された園舎は老朽化が進み、床やドアが剥がれ落ち、雨天時には雨漏りしていた状態に加えて、暖房設備の故障により、厳冬期の 1 月から 3 月は屋内温度が氷点下近くまで下がり、この期間園児 48 名は自宅待機を余儀なくされ、保護者は就業できないという経済的負担が生じていました。また、近隣の幼稚園も定員が上限に達しており、72 名の待機児童が発生していたため、園舎の早急な改修が求められていました。

アラケリャン・アルマヴィル開発センターNGO代表は式典で、「予期せぬ耐震工事等が入り計画が遅れてしまいましたが、来年には当初計画を大きく上回る児童を受け入れられる見通しとなりました。日本政府の支援のおかげで待機児童数が減り、子供たちは新しい園舎の下で学ぶことができるようになり、大変感謝しています」と述べました。青木豊駐アルメニア日本国大使も、「この園舎の改修により、園児たちが年間を通じて安全で快適な環境で学び成長できるようになることを嬉しく思います。本事業が園児や保護者に直接的な恩恵をもたらし、待機児童を新たに受け入れることで、アルマヴィルの教育環境と地域社会全体の発展に貢献することを願っています。」と祝辞を述べました。



子どもたちの日本語の歌による歓迎



サルグシヤン・アルマヴィル市長(右)と現場を視察する
青木大使



祝辞を述べる青木大使



本事業で整備されたトイレ